

2016年6月1日、世界最長となるスイスの鉄道トンネル「ゴッタルド・ベース・トンネル」が開通しました。今回の Topics は、ゴッタルド・ベース・トンネルの概要と、欧州域内物流への影響についてお届け致します。

1.ゴッタルド・ベース・トンネルの概要

2016年6月1日、スイス南部で建設されていたゴッタルド・ベース・トンネル (Gotthard Base Tunnel) が正式開通しました。全長は 57 キロに及び、日本の青函トンネル(53.9 キロ)を抜いて世界最長の鉄道トンネルとなりました。スイス中部エルストフェルトからイタリア国境近くの南部ポディオまで、アルプス山脈を南北に貫くルートとなっています。

中央ヨーロッパの物流においてアルプス山脈は難所の一つとして立ちはだかっていたが、アルプス山脈をほぼ一直線で貫くルートとなり、欧州域内物流の活性化に大きな期待が寄せられています。

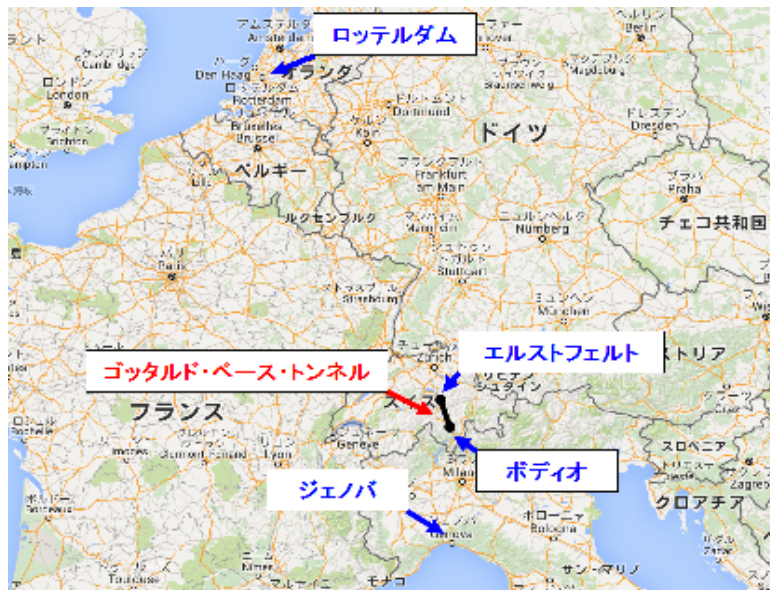
ゴッタルド・ベース・トンネルは現存する鉄道ルートよりも 600 メートルも地下を通過しており、最深部では地表からトンネルまで 2,300 メートルもあります。日本で最も難工事の一つとされているリニア新幹線の南アルプストンネルでも、最深部は地表から 1,400 メートルです。

トンネル開通によって、スイス・チューリッヒとイタリア・ミラノを結ぶ鉄道は、従来の 3 時間 40 分から 2 時間 40 分へと 1 時間も短縮されます。また、一直線なルートであることから、旅客列車で時速 250 キロ・貨物列車で時速 160 キロでの走行が可能となります。

今後は試験走行を経て、本年 12 月から定期運行を開始する予定です。貨物列車の 1 日の最大運行本数は 180 本から 260 本となり、輸送量が大幅に増加することが期待されます。

スイスの連邦プロジェクト「アルプスランジット計画」(注)として総工費 122 億スイスフラン(約 1 兆 3,000 億円)もの予算が投じられ、建設開始の 1999 年から 17 年の年月を経てようやく完工して開通しました。開通式典には、スイス政府首脳に加えて、EU の大陸側主要国からレンツィ・伊首相、メルケル・独首相、オランダ・仏大統領ら各国首脳も出席し、欧州諸国の関心の高さが窺えます。

(注)：既存のトンネルよりも数百メートル深い位置に新たな基底トンネルを建設することで、スイスの連邦プロジェクトではアルプス山脈を南北に貫く高速鉄道を建設するものです。



(出典: Google Map)



一番列車に乗車する(左から)レンツィ伊首相、スイスのアマン大統領、メルケル独首相、オランダ仏大統領
(写真:代表撮影/ロイター/アフロ)

2. 欧州域内物流への影響

ゴットアルド・ベース・トンネルの開通によって、荷主にとって欧州域内の鉄道輸送の利便性が向上すると考えられます。欧州の北から南(オランダ・ロッテルダムからイタリア・ジェノバ)へ年間約 700 万トンの貨物輸送がありますが、直接そして即時のメリットは、スイス国内の物流に限定されると見られています。

スイス国内では、輸送時間の短縮もさることながら、貨物列車の本数が従来の 5 割近く増加することや、急勾配を上らなくて済むためフラットに運搬できるようになることから長大貨物の輸送も容易になります。また、バーゼル(スイス北部)とキアツ(スイス南部・イタリア国境付近)ではトラックから鉄道への連結も可能となり、利便性向上の一つの要因と考えられます。さらに、本年 12 月から自動車税が増税されるため、鉄道輸送へのモーダルシフトを政策面でも後押ししています。

スイスの周辺諸国では、まず、オランダでは数年前から鉄道事業に投資しており、鉄道輸送の増加への準備に取り組んでいます。一方で、ドイツではライン溪谷の上部地域には線路が 2 本しかなく、鉄道輸送量の増加に対応するためには 4 本へ増設する必要がありますが、15 年~20 年のはかかると見られています。また、イタリアでも鉄道の改良が必要であり、少なくとも 10 年~15 年のはかかる模様です。

ゴットアルド・ベース・トンネルの開通によって EU の南北の鉄道輸送増加の契機にはなるものの、ドイツとイタリアでの障壁により、本格的に稼働して効果が出るのはしばらく先となりそうです。



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html